

池上遼一・画



# 砂の惑星

DUNE ユニヴァーサル映画 CIC配給

フランク・ハーバートの大作「砂の惑星」は、一九六五年に発表されて以来、ベストセラーを続け、SFファンにデューン・シリーズで親しまれ、幾度となく映画化が試みられてきたが、そのぼう大なスケールの為に、それは不可能とまでいわれた。

そして、遂に国際的プロデューサー、ディノ・デ・ラウレンティスが、待望の映像化に成功したのである。

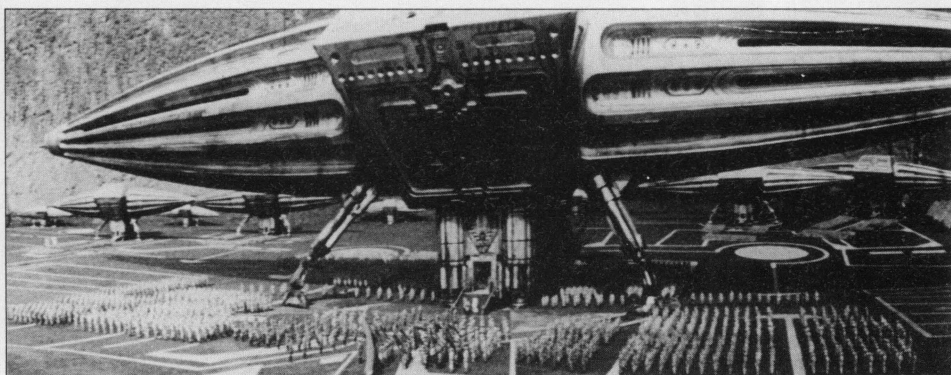
製作・総指揮は、ディノ・デ・ラウレンティスの娘ラファエラ・デ・ラウレンティス。監督は鬼才デビッド・リンチ。特殊効果は「レイダース/失われたアーク」でアカデミー賞受賞のキット・ウエスト。イメージ豊かな生物デザインは「エイリアン」「E.T.」のクリエーターとしてアカデミー賞受賞のカルロ・ランバルディ。プロダクションデザインは「二〇〇一年宇宙の旅」のトニー・マスターズ、と現代SF界の最高スタッフが顔を揃えている。

メキシコロケに約一年、一〇〇〇人以上のクルー、一五〇〇〇人のエキストラ、総製作費は五〇〇〇万ドルを超える。いまだかつてどんなSFにも登場しなかった未来世界、世紀を越えたエピック・ロマン、リンチ美学の集大成が「砂の惑星」なのだ!

物語は西暦一〇一九一年から始まる。宇宙は皇帝と宇宙協会、惑星を領土とする公家連合の三大勢力に支配されていた。

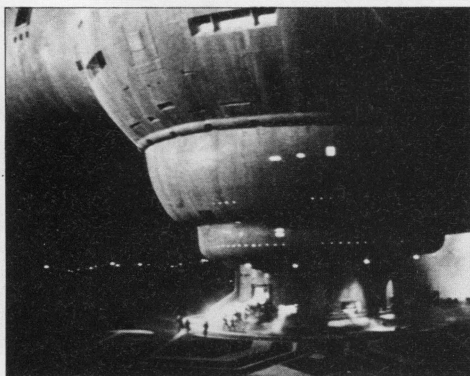
時の皇帝シャッドム四世は、アトレイデス家に砂丘(デューン)と呼ばれる惑星アラキスを新たな領土として与えた。アラキスコそ不老不死のスパイス、メランジの唯一の産出星であり、それを支配する者は宇宙を支配すると言われる惑星であった。だが、皇帝の真意はアトレイデス家の滅亡を狙っていたのだ。アラキスに移住するアトレイデス一族を待っていたのは、皇帝と密着した仇敵ハルコネン家の陰謀と苛酷な風土、そして想像を絶するサンド・ウォーム(砂虫)の出現であった。宇宙を支配する邪悪な権力に敢然と挑戦するアトレイデスの王子ポール。壮大な戦いがいま始まる。

(ユニヴァーサル映画・CIC配給)



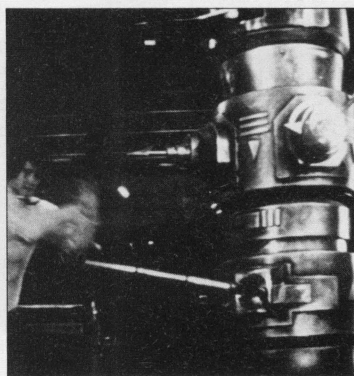
●アトレイデス宇宙船

ハルコネンの粗削りなデザインに比べて、エレガントなデザインだ。イラストレーターロン・ミラーは、有名な宝飾卵「ファベルジェ・エッグ」からヒントを得たという。



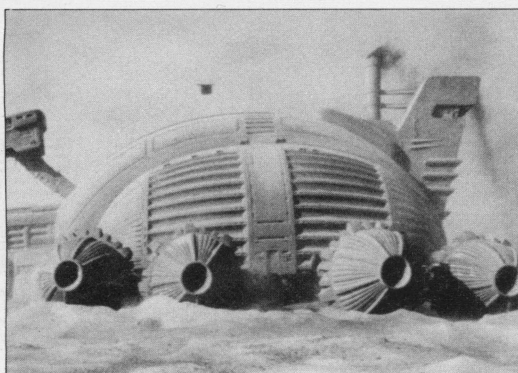
●ハルコネン宇宙船

ハルコネンの宇宙船は、原始的かつ実用的に作られているので、デザイン的なことは一切考えられておらず、ポイラーのような形をしている。



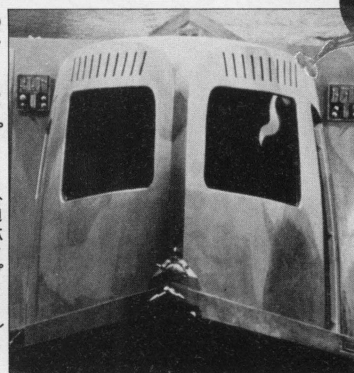
●トレーニング・ロボット

アトレイデス家の戦士たちをトレーニングするためのロボット。デザインは、トニー・マスターズ。製作とオペレーションは、特殊技術効果のキット・ウエスト。



●スパイス採掘機

「メランジ」を採掘する機械。全長120メートル、全幅40メートルの巨大な車体をそれぞれ独立した動きをする車輪で移動させる。



●オーニソプター(通称ソプター)

鳥のような格好をした飛行機。原作では、翼をはばたかせて飛ぶが、映画では、翼の部分がスライドする。